

12月定例会 総括 質問

主な質問と答弁

湘南フォーラム

出村 光議員

市長に問う 1期4年の評価から

問 市長はマニフェストの外部評価の結果をどう受け止めたのか。

市長 高い評価に満足することなく、引き続き、生活しやすさナンバーワンを目指して取り組む。厳しい評価を受けた項目については今後の行政運営に生かしていく。

問 見附台周辺地区整備事業の状況を伺う。

市長 今年度は、地域住民と関係団体への経過報告や意見交換を行った。年度内には関係者の意見を整理し、複合公共施設の検討や崇善公民館の先行整備の可能性など、地区全体の整備の方向性を見出したい。

問 見附台周辺地区の整備と中心市街地の活性化との関連性をどう考えているか。

市長 中心市街地を取り巻く環境は大きく変化している。市役所新庁舎などの行政・文化機能、天沼地区の大型商業施設、見附台周辺地区の音楽・芸術機能が連携した一体的なまちづくりを検討する必要がある。

ツインシティ整備

問 ツインシティの実現に向けた思いを伺う。

市長 本市が将来にわたって持続的に発展し、安定的な行政運営を行うため、ツインシティ大神地区を本市の「北の核」とする計画的な市街地を形成する。その結果、新幹線新駅の設置や新橋の建設による交通便利性の向上、企業の誘致による雇用の創出、商業施設による生活利便性の向上、地域の防災拠点の整備を実現したい。

問 事業化への展望を伺う。

市長 円滑な事業運営には多くの地権者の同意が必要である。準備会や県と連携し、引き続き丁寧な説明と、きめ細かな対応を行い、賛同していない方との意見交換をしていく。

問 土地区画整理事業における減歩率は担保しているのか。

市長 先の議会で、今後減歩率が上がっても公的な負担をする意思を示した。その方針を約束して取り組む。

次世代を担う 子供たちのために

問 保育所の待機児童はいつゼロになるのか。

健康・こども部長 卒園予定児童数と今年度の整備による定員増で、平成27年4月1日には待機児童ゼロが見込まれる。

問 民間の借家を使用した放課後児童クラブを小学校などに移設できないのか。

健康・こども部長 耐震性に優れた公共施設への移設を目指し、教育委員会や関係機関と協議を続けていく。

先の台風18号から

問 被災者への被災見舞金の手続きはどのように周知しているのか。

防災危機管理部長 床上浸水は災害見舞金の対象になるため、被害調査の際に紹介している。大規模災害には災害弔慰金などの制度も

ある。ひらつか防災ガイドブックやホームページで周知している。

問 鈴川の水位が上昇したときに県と市は連携して対応しているのか。

防災危機管理部長 市ではたまった水を排除するポンプの排水能力の向上や、雨水を流す幹線の上流部に流入する農業用水の切り直しなどを検討する。県には、河川水位を下げる対策を求めると、県、市で連携して取り組む。

小泉 春雄 議員

統一自治体選挙 落合市長は2期目の選挙に立候補するのか。

市長 1期4年の任期満了まで、まだ数か月ある。今は直面する市政運営のさまざまな課題に道筋をつけるべく取り組みを進めており、適切な時期に判断する。

土砂災害と水害

問 土砂災害警戒区域を指定しても、そこでの災害がなくなるわけではない。地域の人と行政が話し合い、災害を軽減するための対応をとるべきではないか。

副市長 地域の方の意向を伺い、いろいろな対応をしていきたい。

問 平成26年10月の台風では、総合浸水対策基本計画の重点対策地区以外でも、県道606号の大島から下島にかけての道路や、西真土の保育園で冠水などの被害があったが、重点対策地

米村 和彦 議員

人口減少社会への 平塚市の取り組み

問 人口減少社会を乗り切るためには「市内経済の活性化」と「出生率の向上」が重要だと考えるが、本市はどのような取り組みを進めているのか。

産業振興部長 今後の対応として、人口減少を前提としたまちづくりと子供を産み育てやすくする施策を並

行して行く必要がある。特に少子化の要因には、若年層の経済状況が影響している。雇用環境の改善に向け、求職者への支援や地域産業の育成、育児と仕事を両立できる環境づくりなどを進めていく。

市西部地域の課題

問 金目地区では、2つの区画整理事業が20年以上にわたって続いている。事業の進展と人口の推移について伺う。

ほしいという考えはある。場所や規模、だれが整備するのかということも含めて研究したい。

米飯 給食

問 小学校の米飯給食を食べる機会があったが、ご飯が冷たかった。ご飯は温かいものを食べさせてあげたいと思う。調理場から子供が食べるまでの給食の流れと、保温容器はどうなっているのか伺う。

教育指導担当部長 ご飯については神奈川県小学校給食会の業者へ委託しており、ご飯をアルミの食缶に入れ、それを保温箱に入れて学校へ配送している。炊きたてとはいかないが、子供たちが配膳する時点である程度の温度は保たれている。容器を現在のアルミの食缶から、お米でできた不織布の内袋に替えると、結露水が防止できて保温やおいしさに効果があると聞いているので、そういった容器を導入していきたい。

「七ツまつり会館」の 必要性と整備

問 平塚の観光資源である七ツまつりを、一年を通して全国に発信するための拠点となる会館を整備すべきではないか。2020年の東京オリンピックの年に七ツまつりは第70回を迎える。それまでに会館ができるよう努力してもらいたい。

産業振興部長 観光の核が

都市整備部長 真田・北金目特定土地区画整理事業は、今年度内に道路や公園の整備が完了し、3月には換地処分を行う予定である。真田特定土地区画整理事業は、建物移転が1件残り、都市計画道路の一部が完成していない状況である。真田と北金目の住居表示実施地区の人口は、平成22年3月から26年11月までの5年足らずで約1900人増加している。

問 みずほ小学校区はここ数年で児童数が増加し、教室数の不足が懸念される。現状とその対策を伺う。

学校教育部長 みずほ小学校の現在の児童数は347人、学級数は15学級である。今後10年の推計では、児童数が500人を超え、5学級程度の増加が想定されている。校舎の増築、または別棟をリース方式で建設する形で、不足する教室を確保

保したいと考えている。

問 近年頻発するゲリラ豪雨や大型台風のたびに、金目川とその周辺地域では河川の氾濫や浸水が懸念されている。早期に対策を講ずるべきではないのか。

土木部長 氾濫対策として、県が管理する金目川では、1時間当たり50ミリの降雨にも対応できるように整備を進めているが、唐ヶ原地区と上平塚地区、下花水橋上流右岸は課題を抱えているため工事に着手していない。市では早期の堤防整備を県に強く要望している。浸水対策では、平成26年7月に平塚市総合浸水対策基本計画を策定し、重点対策地区を指定している。また、長持ポンプ場周辺の浸水には、ポンプの排水能力の向上や農業用水の切り直しを検討するなど、原因究明と被害の状況に応じた対策を講じていく。

4月は統一地方選挙

政治家の寄付行為は禁止

議員が、選挙区内の人に対して寄付をしたり、あいさつ状を出したりすることは法律で禁止されています。また、有権者が議員に寄付を求めるとも禁止されています。



祭りへの寄付や差し入れ



落成式、開店祝いの花輪



入学祝卒業祝

議員研修会を開催しました

人口減少問題と向き合う議会の役割とは

平塚市議会では、議員が地方自治の現在や将来の課題に対する知識を深め、政策に反映させるため、毎年、有識者を招いて研修会を開催しています。

今回は、「人口減少時代における地域政策」をテーマに、東海大学政治経済学部小林隆教授の講演を聞きました。

人口減少社会において地方自治体が継続的に発展していくためにはどうすべきなのか、行政や議会の役割を考えました。

